

貞慶撰『観世音菩薩感應抄』の研究

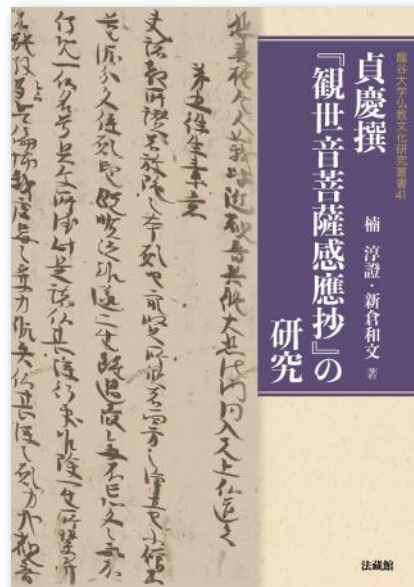
龍谷大学仏教文化研究叢書41

楠 淳證・新倉和文 [著]

A5判・上製カバー・四五〇頁

本体九、〇〇〇円＋税

2021年3月刊行



解脱房貞慶が自らの観音浄土信仰の理論を示した『観世音菩薩感應抄』と弥陀浄土信仰の理論を示した『安養報化』の貴重写本を翻刻、訓読と詳解を附して総合的に考察。雑多な信仰の持ち主と誤解される貞慶の信仰理論を解明する。

序 辞

第一部 総論

第一章 貞慶撰『観世音菩薩感應抄』の撰述と思想的特色 (楠 淳證)

第一節 はじめに

第二節 『観世音菩薩感應抄』の撰述

第三節 仏道の実践と多重浄土論

第四節 観音の神呪の功德

第五節 むすび

第二章 『観世音菩薩感應抄』の成立と前後の貞慶 (新倉和文)

第一節 東大寺所蔵 貞慶撰『観世音菩薩感應抄』

第二節 貞慶撰『観世音菩薩感應抄』の作品の意義について

第三節 阿弥陀信仰から観音信仰へ——後白河、平家の鎮魂のため談義を開く——

第四節 大原談義の成立事情

第五節 『観世音菩薩感應抄』の翻刻読解研究

第六節 表 題

第七節 帰依因縁

第八節 減罪利益

第三部 『観世音菩薩感應抄』の翻刻読解研究

第一章 表 題

第二章 帰依因縁

第三章 減罪利益

第四章 臨終加護

第五章 当来値遇

第六章 往生素意

第七章 利他方便

第八章 奥 書

附 録 貞慶撰『安養報化』(上人御草)

の翻刻読解研究

序

一、安養は唯報か通化か(第一問答)

二、疑難の由来と会通(第二問答)

三、変化長時浄土と安養世界(第一談義)

四、通化の根拠(第二談義)

五、弥陀の浄土は処々不定(第三談義)

六、『観経』の真偽(第四談義)

七、報化相對の廢立(第五談義)

八、如幻の道理(第六談義)

九、報化二土一体同処論(第七談義)

十、土の本為(第八談義)

結

あとがき

【著者略歴】

- 楠淳證 = 1956年生まれ。兵庫県出身。龍谷大学文学部仏教学科卒業、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程(仏教学専攻)単位取得満期退学の後、龍谷大学専任講師、助教授を経て、現在、龍谷大学文学部教授、龍谷大学世界仏教文化研究センター基礎研究部門長、浄土真宗本願寺派司教、兵庫県豊岡市出石町福成寺住職。博士(文学)。専門は仏教学、特に唯識教学。
- 新倉和文 = 1952年生まれ。愛媛県出身。2011年9月21日逝去。大阪大学文学部文学科(国文学専攻)卒業、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程(仏教学専攻)単位取得満期退学の後、大阪桐蔭高等学校教諭ならびに龍谷大学非常勤講師。修士(文学)。専門は嵯俊・貞慶研究。

注文書	
(書店名)	様 冊
ご担当	法藏館
ISBN978-4-8318-6387-4 C3015	九、〇〇〇円＋税
貞慶撰『観世音菩薩感應抄』の研究	楠 淳證・新倉和文 著
お名前	ご住所
お電話	

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏 教 学